

日本脊椎脊髄病学会 平成 27 年度第 1 回安全医療推進委員会議事録

日時：平成 27 年 5 月 23 日(土) 午前 11:45～13:20

会場：神戸国際会議場 4F 407 号

出席者：井口哲弘（担当理事）、根尾昌志（委員長）、村上英樹（書記）、今城靖明、大谷晃司、尾形直則、小澤浩司、田口敏彦、宮腰尚久

欠席者：なし

報告事項

1. 腰部脊柱管狭窄症手術の合併症に関する論文の Spine reject の報告

Reviewer1 は比較的好意的であったが、reviewer 2 と 3 は「集められた data の質(モニターされていないこと)」と「28%という回収率の低さ」を特に問題視しており reject となった。

審議事項

1. 2011 年手術合併症調査の論文について

腰部脊柱管狭窄症手術の合併症に関する論文について

今更データの質、回収率は変更できないため、海外からの報告のない 80 歳以上の手術の安全性ということにトピックを絞り、できるだけコンパクトな論文にして他誌（Euro Spine J など）に再投稿することとなった。

頸椎症性脊髄症手術の合併症に関する論文について

こちらのデータは腰部脊柱管狭窄症のデータよりもさらに年齢間の差が少ないため、まとめにくい。腰部脊柱管狭窄症の論文をまず投稿し、それに対する reviewer の反応を見て、頸椎症性脊髄症論文の論旨、ポイント、方向性を決めることとなった。

2. 次回アンケートの方法や改善点について

報告事項に挙げた Spine の reviewer の指摘は大切なことで、その指摘を次回のアンケートに反映しなければならない。

データの質に関しては、

- 整形外科責任者にデータの質の保証をしてもらう。

回収率の向上に関しては、

- 対象施設を大病院に絞る。
- アンケートに回答することを研修施設認定の要件とする。（医療安全単位や金銭も考えられるが、それだけでは難しいだろうとの意見から）

等が考えられる。研修施設の認定要件などに関しては、7月の理事会に諮ってみる。

3. その他

10月から医療事故調査制度が開始される。それに伴い日本脊椎脊髄病学会から当該の院内事故調査委員会に外部委員として学会員を派遣する場合、その業務を当委員会が担当することになるであろうと報告された。しかし、医療事故調査制度はまだ不透明であり、今後注意して見守っていくことで意見が一致した。

4. 次回会議日程

腰部脊柱管狭窄症の論文(審議事項1-)はメール審議を通じて10月頃を目途にブラッシュアップしていく。

1月の専門医試験の時に、皆で集まって会議を開くことになった。